

2016年4月15日

「スズキ牧之原太陽光発電所」の稼働について



スズキ株式会社が静岡県牧之原市の中里工業団地に建設を進めていた太陽光発電施設「スズキ牧之原太陽光発電所」は、最大能力 20MW（メガワット）の発電所として昨年 10 月より試験運転を開始している。現在、発電量を更に増加させるための増設工事を実施しており、完成は 2016 年 7 月末を予定している。

「スズキ牧之原太陽光発電所」は、中里工業団地に自社が持つ 42 万㎡の土地と相良工場敷地の一部をあわせた計 46 万㎡の敷地に、約 11 万枚のソーラーパネルを設置する。増設後の年間発電電力量は、一般家庭 8,900 世帯分に相当する約 32,200MWh（メガワットアワー）を予定しており、総投資額は約 79 億円となる。発電した電力は全量中部電力へ売電する。

スズキの太陽光発電事業は、昨年 6 月には浜松市北区都田町の浜松工場屋上に設置した 0.9MW の発電所が稼働しており、さらに 10 月より浜松市西区舞阪町の遊休地にスズキグループとして、4MW の発電所が稼働を開始している。

「スズキ牧之原太陽光発電所」の稼働により、スズキグループの太陽光発電所の総設備容量は約 25MW となる。これらの太陽光発電所稼働による CO₂ 排出量削減効果は、スズキ国内工場の 2014 年度 CO₂ 排出量の 9.8% を見込んでいる。

スズキは発電事業を通じて地域に貢献するとともに、エネルギーの地産地消を進め地球温暖化の抑制や環境保全の取り組みを強化していく。